

越境の学びが、未来の意思決定力を育む。

～環境教育からキャリア教育への架け橋～

*株式会社ネオキャリア×NPO法人新宿環境活動ネット×学校法人明星学園



Background | 背景：不安を抱えている生徒に意思決定のタネやきっかけを提供したい

進路に不安を抱く高校生に、社会とつながる「越境の学び」を。

■背景

- ・高校の先生から人材会社のサステナブル担当へ、進路や総合型選抜に関する相談が寄せられた。
- ・「社会との接点を通じて、生徒に意思決定のきっかけを与えたい」との声。
- ・日本財団「18歳意識調査」によると、
➡「なりたい職業がない」20.3%
➡「働くことに不安がある」男性7割・女性8割



生徒に「アウトプットの機会」と「校外との越境協働」にを提供するため、安心して前向きに新しいことに挑戦する居場所づくりとして企業×NPO×学校の産学民連携による小学生への環境出前授業を企画。

Purpose | 目的

- ・環境教育とキャリア教育を融合し、「環境人材の育成」と「進路支援」の両立を図る。
- ・意思決定力を育む越境学習

Method | 手法：学びの三要素：アントレプレナー × イントレプレナー × インタープレナー

企業視点の学びの三要素

- ①アントレプレナー（新しい価値を創出する力）
…授業企画や発表を通じて体験
- ②イントレプレナー（組織内で変革を起こす力）
…チーム運営や授業改善を通じて体験
- ③インタープレナー（組織を超えて共創する力）
…企業、NPO、大学生との連携により体験



高校生が小学生に出前授業を実施し、3つの能力を同時体験。

高校生による小学生への環境出前授



- ・明星学園高校の生徒が明星学園小学校4年生、5年生全クラスに出前授業を実施。
- ・産学民連携による授業の実施
産：企業（ネオキャリア）
学：明星学園、大学生（早稲田大学）
民：NPO（新宿環境活動ネット）、高校卒業生

授業内容

■授業テーマ：「レジ袋とエコバッグ、どちらがエコ？」

- ・“当たり前”を問い直す授業を協働チームで設計。
- ・講師に早稲田大学で環境サークルOBを招き、専門的な視点を導入。
- ・10名の高校生がファシリテーターとして進行役を担当
- ・10名の高校生が振り返りのワークショップを担当
- ・大学生・企業・NPOがゲスト講師として登壇
- ・小学生150名に出前授業を実施
- ・「レジ袋VSエコバック」ではなく「ものを大切に使うこと」がエコという本質を伝える授業



どっちがエコ



Kappanda

授業風景



Result | 結果

小学生の変化

- ・「一つの視点で決めつけない」多面的思考を体験。
- ・「モノを大切に使うことがエコ」と本質に到達。



<感想からの重要なキーワード>

「視点を変えると世界が変わる」「当たり前を疑う探究の楽しさ」

高校生の変化



- ・社会人、NPO、大学生との協働を通じた新しい「居場所」での成功体験。
- ・自己肯定感と帰属意識が向上。
- ・ファシリテーション・課題発見・発信力が向上。

<感想からの重要なキーワード>

「教えることで学びの深さに気づいた」
「“当たり前”をずらして考えることが大切だと思った」

Result | 考察

未来を描く前に、“いま”を整える

- ・進路不安は「今の居場所」に対する不安でもあり、未来の不安は“今”の居場を作ることで解消できる
- ・学校では獲得が難しいインタープレナー（越境協働の）場が、挑戦と承認の両立を生み、意思決定力を育てる。
- ・他者との協働が内発的動機を高める。

Conclusion and Future Directions | 結論・今後の展開

越境の学びが、未来の意思決定力を育む。

- ・教える立場の体験が、最も深い学びを生む。
- ・「当たり前」を問い直す姿勢は、環境教育だけでなくキャリア選択にも通じる。
- ・多様な価値観と出会い、対話を重ねる中で、自分の“本質”に出会う探究学習を継続。
- ・現在も明星学園との連携を継続し、2026年初頭には「明星フューチャーセッション」を開催予定。
- ・産学民連携による持続的なESD×キャリア教育モデルとして展開

References | 参考文献

日本財団「18歳意識調査」
第68回テーマ「就職・仕事観」／第62回テーマ「国や社会に対する意識（6カ国調査）」
<https://www.nippon-foundation.or.jp/>